

2024年度研究助成課題が決定しました

2024年度の研究助成は、個別研究助成58件・育成研究助成34件の応募があり、理事会で審議の結果、次の通り個別9課題、育成4課題が決定しましたのでお知らせします（応募順、申請時の所属）。今年度は過去最多の応募数となり、2023年度に続き、育成研究助成は高い評価を得た課題が多かったため、予定より1件多く採択されました。

個別研究助成（1年間）

氏名	所属	課題	助成金額 (万円)
松本 裕幸	東京農業大学大学院 博士後期課程2年	亜寒帯域の海草藻場における局所的な熱波がホッカイエビに及ぼす影響評価と対応策の立案	70
柴田 大輔 共同研究者：幸塚 久典	神奈川工科大学応用バイオ科学部 准教授	オーストンフクロウニ <i>Araeosoma owstoni</i> の生殖と発生	70
宮地 亮佑	広島大学生物生産学部 学部4年	ゼラチン質動物プランクトンがタルマワシ類の種分化に与える影響	70
梶本 麻未 共同研究者：豊田 賢治	奈良女子大学大学院 博士後期3年	寄生性フジツボ類フサフクロムシにおける宿主への定着機構の解明	70
藤本 心太 共同研究者：山崎 博史	山口大学大学院創成科学研究科 助教	日本産胴甲動物の多様性研究	70
高山 佳樹 共同研究者：水井 涼太、栢沼 勇魚	横浜国立大学 大学院環境情報研究院 (兼務：臨海環境センター) 助教	世界最北端の造礁サンゴの群集構造と成長速度：相模湾真鶴半島における事例研究	70
南條 完知 共同研究者：大場 裕一、戸篠 祥、別所 学	愛媛大学理学部生物学コース 学部4年	ヒドロクラゲにおける未知なる発光種の探索と生物発光の進化	70
高星 和浩	北海道大学大学院 博士課程 / 研究補助員	原順列類（扁形動物門）の分布様式及び系統関係の解明	70
金原 僚亮	東京大学理学系研究科附属臨海実験所 後期博士課程3年	頭足類における二次的な交尾器“交接腕”の形成機構	70

育成研究助成（2年間、金額は1年目交付額）

氏名	所属	課題	助成金額 (万円)
永井 優貴	東北大学大学院農学研究科 博士後期課程1年	水産業を介して世界に分布拡大した環形動物多毛類の移動の実態	100
大坂 雄一郎	東邦大学大学院 博士後期課程1年	干潟環境中における多環芳香族炭化水素の浄化と多毛類との関係	100
上杉 佑人	東京大学大学院理学系研究科 修士課程1年	群れが捕食回避能力を向上させるメカニズムの解明 —ミナミコムツキガニ <i>Mictyris guinotae</i> を用いた群れの逃避行動実験—	100
平井 裕大	東京農業大学大学院地域環境科学研究科 修士課程1年	マングローブ林のリターフォール動態に及ぼす巻貝キバウミニナの役割評価	100

編集後記

今号の表紙は、ユビノウハナガサウミウシ *Tritoniopsis elegans*（写真の個体は1.2 cm）というホクヨウウミウシ科のウミウシです。体の色は白色や黄色、橙色など変異が多いそうです。白色は海の中で目立つ色ですが、ウミウシ類は白色を地色にもつものも多く見られます。この個体は全体が真っ白で、なんだか動物には見えないほど背面の突起の分枝が美しく、なかなか見ることができない一枚だと思い、表紙に選びました。

今回のエッセイは南極に行かれた高校の先生のお話です。南極はなかなか行ける場所ではありませんし、観測隊に同行し、教員として南極から授業を行うということもさらに貴重なことだと思います。私も、以前、観測隊として南極に行ったことのある大学の先生の授業で南極での話を聞き、惹きこまれたことを今でも鮮明に覚えています。ぜひ、南極を知る機会になればと思います、ご紹介いただきました。